

TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2017 Summer Lecture 2017 for Nanoscience/Nanotechnology

7月24日から8月3日(7月30日を除く)の10日間、Summer Lecture 2017 for Nanoscience/Nanotechnology が筑波大学大学院数理物質科学研究科、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センターのダブル主催によるリアルタイム遠隔講義システムで開講し、TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2017の幕を開けました。



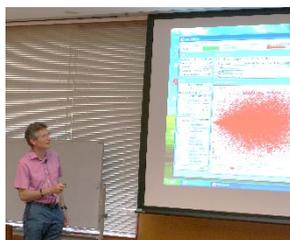
黒田 眞司教授
 筑波大学数理物質系

7月後半から8月初旬にかけて、Summer Lecture2017を10日間にわたって開講しました。昨年度と同様海外において第一線で活躍されている4名の講師をお招きし、筑波大学と大阪大学でTV講義配信システムを活用して実施しました。講義は全て英語で行われ、海外講師による成績評価のうえ正規履修の合格者は筑波大学大学院における単位(各科目1単位)として認定されます。4講義合計で50名近くの受講生に、トップ大学の著名教授による講義を体験してもらうことができました。

講義のテーマは「固体へのイオン注入」、「ワイドギャップ半導体と低次元ナノ構造」、「透過型電子顕微鏡と物質科学への応用」、「ナノフォトニクスとスピントロニクス」と多岐にわたる内容となりました。



最終講義での受講生の
 共同プレゼンテーション



Prof. Gheeraert
 講義

講義内容はビデオ収録されており、後日ネットワーク経由でビデオ視聴が可能となりました。また、遠隔システムではリアルタイムでの遠隔質疑も行うことができ、各講義の最終日には、受講生によるプレゼンテーションが行われ、意見交換も盛んに行われました。



Prof. Henri Mariette最終講義での記念集合写真
 (国際色豊かなメンバーとともに海外大の講義を体験)

講義終了後のオフィスアワーでは、多くの学生の熱心な質問を受け、関連分野の理解を深める一助となりました。また26日夕方に開催した懇親会により、講師と学生の親睦を深める事ができました。事後アンケートによると、最終講義でのプレゼンテーションを通して、他の受講生と共同でプレゼンテーションを行い、また他のプレゼンテーションへの質疑を通して、受講生間での交流を深めることができたのが良かった、という声がありました。受講生にとって英語での講義を受けるだけでなく、英語でのプレゼンテーションを通して得るものは大きかったのではないのでしょうか。最後に、本活動を支援して頂いた教員を始め学内外の皆様に感謝申し上げます。

期間	2017年7月24日(月)～8月3日(木) ※7月30日(日)を除く10日間
会場	筑波大学 総合研究棟B0110室、大阪大学 吹田キャンパス、豊中キャンパス
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育センター
構成	4講義、各8コマ
参加者数	48名(大学院生47名、一般1名) ※4講義合計

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>